

## 引き継がれる熊舞くままい

「熊舞を見てくれたお客さんが、おもしろかったと言ってくれた時が一番うれしいですね」と話す石川さんは、登別温泉熊舞の会に加入して9年目。いつも、太鼓を担当しており、「屋内で演じる時には、特に熊と狩人の気持ちが伝わるよう、強弱をつけて打つことが難しい」と日々の熊舞を振り返ります。

登別温泉で開業した時に誘われて加入した石川さんは、お祭りなどで熊舞を見ていたものの、「まさか自分が熊舞の会に加わるなんて、考えてもみなかった」といいます。

昭和56年に、登別温泉街で働いていた人たちが集まり、観光の活性化を目的に、また、温泉への感謝の気持ちを込めて創作した熊舞は、狩人が山中で出会った2頭の



▲熊と狩人の軽快な掛け合いで観客を魅了する『熊舞』

熊に導かれ、地獄谷にたどり着いたという言い伝えに基づいた郷土芸能です。

以前から会として市内の中学校で熊舞を教えるなど、地域に根ざした活動にも取り組んでおり、現在の会員の中には、登別温泉中学校で熊舞を習っていた人もいます。石川さんは、「今、教えている生徒が、いつか教える立場になってくれるといいですね」と次の世代が引き継いでくれることを期待しています。

## 熊舞も魅力の一つに

現在の登別温泉熊舞の会は17人それぞれ仕事もあるため、出演者を集めることが難しい時もありますが、「出演依頼があれば断らないこと」を大切にし、都合のつく会員をやりくりして、熊舞を演じています。

「見ていた人が、熊舞にも魅力を感じて、また見たい、また来たいと思ってもらえたら」。

熊舞がつくられてから36年。創作当初の目的や思いも引き継ぎながら、市内のホテルやさまざまなイベントなどに積極的に参加し、今日ものぼりべつを盛り上げていきます。



KIRARI

いし かわ はじめ  
石川 元くままいさん (登別温泉町)

皆さんは、郷土芸能「熊舞」を知っていますか。

山の中をさまよっていた狩人が、偶然出会った大きな2頭の熊を、うまく手なずけ、転がしたり立ち上がらせたりする、迫力満点の郷土芸能です。

主に登別温泉のホテルで宿泊客に対して披露されることが多い熊舞ですが、市内外で行われるイベントにも出演することがあります。7月に川上公園で行われた「のぼりべつ夏祭り」で見た方もいるのではないのでしょうか。

今回は、熊舞を演じる登別温泉熊舞の会の一員で、大きな熊と狩人にあわせて、太鼓を演奏する石川元さんに熊舞への思いを伺いました。

## のぼりべつにまた来たいと思ってもらいたい



昭和47年、登別市生まれ。44歳。

市外の旅行会社で経験を積んだ後、平成18年、登別市に戻り、登別温泉にあるホテルに勤務。平成20年、登別温泉町に「のぼりべつトラベルコンダックス」(旅行代理店)を開業し、現在は、登別温泉への宿泊やレンタカーの手配などを行いながら、熊舞や地獄の谷の鬼花火など、市内のイベントに積極的に参加している。